



議会だより

ピツシリ

TEL (0164) 68-7011 議会事務局 FAX (0164) 62-1278

北海道苫前郡羽幌町南町1番地の1

目次

活動報告会(総務産業)P2	活動報告会(文教厚生)P3
議会定例会(決算特別委員会含む).....	P4~P5
一般質問(金木氏).....	P6
一般質問(平山氏).....	P7
一般質問(小寺氏).....	P8
総務産業委員会報告.....	P9
文教厚生委員会報告/ TOPIC議会.....	P10



羽幌町子ども自然教室「化石発掘体験」(上羽幌) (平成25年8月31日)

議会日誌

7月

- 3日 議会広報特別委員会
- 23日 文教厚生常任委員会
- 25日 総務産業常任委員会行政視察(土別市)
- 26日 総務産業常任委員会

8月

- 2日 総務産業常任委員会
- 20日 議会広報研修会(札幌市)
- 23日 総務産業常任委員会
- 26日 第4回羽幌町議会臨時会

9月

- 3日 総務産業常任委員会活動報告会
- 4日 留萌管内町村議会議員研修会(小平町)
- 11日 議会運営委員会
- 13日 総務産業常任委員会
- 18日~20日 第5回羽幌町議会定例会
- 18日 行政改革調査特別委員会
- 19日 決算特別委員会
- 20日 議会広報特別委員会
- 25日 文教厚生常任委員会

行動する議会をめざして!

ぜひ議会の傍聴にお越し下さい

次回の定例会は12月です

総務産業常任委員会活動報告会



羽幌町中央公民館(小ホール)

開催日：平成25年9月3日(火)

開催時間：午後6時30分～午後8時30分

参加頂いた方々： 23名



■ 総務産業常任委員会の報告 ■

- ・ 婚活事業（農村花嫁対策）
- ・ 離島観光・焼尻めん羊牧場
- ・ 中央埠頭アクセス道路
- ・ 道路・橋梁の長寿命化
- ・ (株)ハートタウンはぼろ

参加者からの主な質問・意見

◇ハートタウンはぼろについては、チェック機関として適正な判断をしてもらいたい。

◇めん羊は羽幌町の資源であると思う。今年度は「愛ランドサフォーク夢の布団」として新生児にプレゼントされて、肉はフランス産のプレサレにも勝るとも劣らないと聞いている。めん羊事業を継続してほしい。

◇常任委員会の制度に納得できないことがある。

◇かつては3つの常任委員会があったが、現在は2つになり、議員定数も11名になっている。町民のニーズも増えており、多様化していると思う。地域が厳しいときこそ定数は増やすべきではないか。またこれ以上減らすと議会の信用を失ってしまいかねないと思う。

◇議員定数を増やすことは賛成。問題は財政だが、ばらまきを見直せば財源はできると思う。

ありがとうございました。今後の議会・議員活動に生かしていきたいと思っております。

文教厚生常任委員会活動報告会



羽幌町中央公民館(小ホール)

開催日：平成25年10月8日(火)
開催時間：午後6時30分～午後8時20分
参加頂いた方々： 10名

参加者からの主な質問・意見

◇町の人口は減少していくと思われるが、校舎の建替えにどう対処していくのか。余分な経費の出費とならないよう考えてもらいたい。

◇今の羽幌町に、認定子ども園がなぜ必要なのか、理解できない。親族、土地の問題など、何も解決していない。

◇大きな変革となる重要な案件では、常任委員会の役割を發揮させて報告書を出し、本会議での議決の際の参考資料とするなど、運営の透明化を図っていくべきである。

■文教厚生常任委員会の報告■

- ・羽幌小学校建替事業
- ・医療問題
- ・就学前施設のあり方
- ・広域ミックス事業と産廃物最終処分場

◇道立羽幌病院の内科医の派遣元である自治医科大へも、医師確保のための要請をしていくべきである。

◇道立羽幌病院がそのまま多額の赤字運営ではこの先不安である。留萌市への医療機能の集約を検討することも、将来必要となってくるのではないか。

◇医療問題を費用対効果で考えるようになっては医療でなくなる。道立羽幌病院の機能を生かす方向で考えていくべきだ。

今年度は常任委員会ごとに報告会を開催いたしました。多くのご参加、ご意見を頂き、

◎報告－1件 ◎議案－4件

◎同意－1件 ◎諮問－1件

◎認定－8件 ◎発議－3件

◎一般質問－3名5件

第5回定例会

平成25年9月18日～20日

町監査委員により8月19日から28日まで、財政健全化審査を実施した。算定等の基礎となる事項を記載した書類は適正に作成されている。

健全化判断比率	平成24年度	早期健全化基準	前年比
①実質赤字比率	- (%)	15.0 (%)	
②連結実質赤字比率	- (%)	20.0 (%)	
③実質公債費比率	12.2 (%)	25.0 (%)	0.8%減
④将来負担比率	5.4 (%)	350.0 (%)	9.7%減

財政の健全化判断比率



- ① 一般会計の実質収支額は黒字で、財政は健全である。
- ② 一般会計、特別会計、公益企業会計を含むすべての会計の実質収支額は黒字で、財政は健全である。
- ③ ④ どちらも基準額を下回っている。

平成24年度羽幌町各会計決算を審査するため、特別委員会（森淳委員長）を設置し、決算審査を行う。

平成24年度決算認定



町の依頼に応じて職員以外の者が公務のために出張する場合に、その者に対して旅費を支給するため条例の改正を行う。

職員の旅費に関する改正



各委員会は所管事務について議会閉会中に継続調査を行う。

各委員会の継続調査議員の派遣



■介護保険事業特別会計 510万円
582万円

【主な補正内容】
・焼尻職員住宅給湯器 45万円
・地域づくり総合交付金
（中野北渙氏の作品展示室改修費への道補助）

■一般会計補正予算 907万円



- ・一般会計
- ・国民健康保険事業特別会計
- ・後期高齢者医療特別会計
- ・介護保険事業特別会計
- ・下水道事業特別会計
- ・簡易水道特別会計
- ・港湾上屋事業特別会計
- ・水道事業剰余金処分・決算

※1日目、老人クラブの皆様など約35名が議会傍聴に来て下さいました。



羽幌町教育委員会委員の任期満了に伴い、森弘子氏を任命した。

羽幌町教育委員会委員の任命



本町の懸案事項の要望、促進を図るためや議会の研修会並びに各常任委員会、議会運営委員会、特別委員会の調査、研修のために12月までの間に道内外への関係機関に議員を派遣する。

平成24年度 歳入・歳出決算を認定

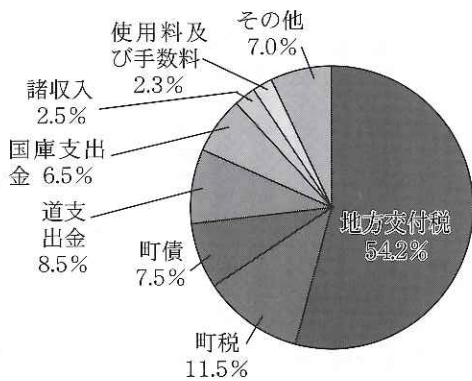
歳出決算総額は**88億6478万円**

一般会計 59億7827万円

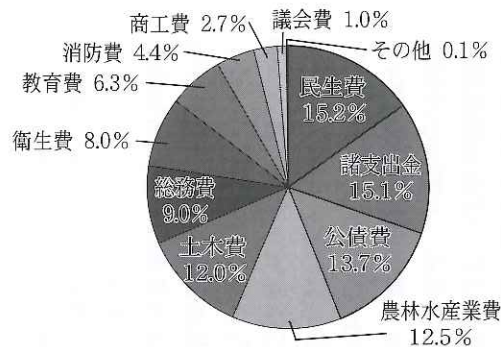
特別会計 28億8651万円

平成24年度各会計決算は、決算特別委員会に付託され、慎重に審議されました。一般会計、特別会計合わせて歳出決算額が88億6478万円となり、歳入・歳出決算のすべてを原案のとおり認定しました。

会計名	歳入決算額	歳出決算額	前年度歳出増減	採決結果	
一般会計	61億1422万円	59億7827万円	5億639万円増	全員賛成	
特別会計	国民健康保険事業	11億6642万円	11億6375万円	901万円増	全員賛成
	後期高齢者医療	1億1323万円	1億1307万円	1121万円増	全員賛成
	介護保険事業	8億3865万円	8億3860万円	1451万円減	全員賛成
	下水道事業	4億7818万円	4億7792万円	1963万円減	全員賛成
	簡易水道事業	4214万円	4151万円	1890万円減	全員賛成
	港湾上屋事業	2億5751万円	2億5166万円	2億3757万円増	全員賛成
合計	90億1040万円	88億6482万円	7億1111万円増	—	



※町債：国や金融機関からの借入金（町の借金）



※公債費：町が借り入れた地方債の元利償還費と一時借入金の利息の合計（町の借金への返済金）

決算審議の主な内容

※抜粋したもの

【質問】介護認定されていない難病患者への障害者控除について調査検討をしてほしい。
 【財務課長】情報をしっかりと収集し、周知期間も含めて判断したい。

【質問】子宮頸がんワクチンへの対応や広報はどうか。
 【福祉課長】国から積極的な勧奨をしないように通達があり、町も同じように対応している。また広報については対象者が限られているので、個別に通知している。

【質問】福寿川の環境を守る活動や環境整備対策が必要。
 【建設水道課長】福寿川の環境の現状を把握して対応していきたい。

【質問】大型工事発注方法の基準や今後の対策はあるのか。
 【建設水道課長】工事の金額で単独やJVにするなどの基準は現在ないが、今後工事内容により内規的に協議して対応していきたい。

【質問】離島に対しての合併

【質問】離島に対しての合併

浄化槽等の補助の見直しや検討もしてほしい。

【町民課長】担当課と協議の上、検討していく。

【産業課長】離島関係の水洗化や整備について対応を検討している。環境という部分での対応や補助も検討していく。

【質問】まちづくり応援基金の状況と使い方は。

【総務課長】平成24年度は5件49万7000円。20年度から累計額は447万2000円。23年度は炭鉱殉公碑の修繕に9万円、24年度は天売海鳥保護対策事業に153万円。平成24年残高は284万円。

【質問】今後の対応策は。

【総務課長】ホームページに常時掲載している。札幌や東京でのふるさと会でもPRしていきたい。今年度から希望者に広報はぼるも送っている。

【質問】町内の植樹で町民からの苦情は。また見直しや今後の考え方は。

【建設水道課長】2件あり枝をはらうなどした。再度道路維持でも全体の部分を確認して、歩行に支障がある場合は対処する。

金木直文 議員



問 地域経済活性化のための条例を

答 官民一体で「中小企業振興条例」

羽幌小学校改築での町内業者参入と地域経済の活性化

【金木】羽幌小学校改築工事において、町内業者参入による地元経済への貢献を考えるのであれば、この基本設計段階から協議、検討していかなければならぬと考える。

(1)地元経済振興の観点から、町内業者の参入などについて基本的はどう考えているのか。

(2)RC（鉄筋コンクリート）構造を選択した場合の、町内業者の参入の可能性をどう考えているのか。

(3)「まちぐるみ」で地域経済の活性化を図ろうと「中小企業振興基本条例」を制定し、自治体、事業者、町民がそれぞれの立場から、工事の発注、物品の調達、役務の利用、消費などで地元経済に貢献しようと努力しているところがある。当町でも検討すべきと思うがどうか。

【教育長】(1)入札の執行にあたっては工事内容や規模、期間などで、元請業者には多様な条件を満たすこと、下請業者の選定は元請業者の判断に

よるが、下請業者には元請業者への営業努力や希望工事に対する技術力が求められるなど、参入にはそれぞれの立場

段階で条件をクリアする必要がある。これらを踏まえ、さまざまな方向から検討したい。

(2)基本設計において、安全で安心な校舎、使いやすく維持管理コスト抑制に配慮した校舎とする基本テーマを踏まえ、配置や間取りなどを含めた詳細を検討することとしている

が、RC構造を選択した場合に限らず、さまざまな条件をクリアすることで可能となる。

【町長】(3)この条例は、中小企業の振興に関して、行政、中小業者及び町民の役割を明らかにし、地域内で提供できる商品や役務を地域内で消費する地域循環型経済を地域が

一体となって取り組むことが基本理念であり、実効性のあるものとするためには、町民の理解と協力が不可欠である。

1次産業の振興を視野に6次産業化も見据え、地域内消費が地域経済活性化につながる

ことが「中小企業の振興」と「地域づくり」に活かされることになる。これらを踏まえ

て、官民一体で議論の場を設

け、特徴のある条例ができるよう努力していきたい。

【金木】公共工事に対する町の基本的な姿勢として、まずできるならば町内の業者を基本としながら、実現に向けた取り組み、段取り、検討などを進めていくべきではないか。

【学校管理課長】下請け、孫請けについては、基本設計あるいは実施設計に至る部分で、関係者の意見を聞くというよう

な場面を設けて進めたい。

【金木】RC構造と決めた場合であっても多額な工事となるので、単独業者でなく、何者かの共同企業体への発注となれば、その中に町内業者を入れるのか、下請業者を決める際にも、町側の強い意向を入れた入札条件とするなど考えられないか。

【学校管理課長】できる限り町では配慮したいが、最終的には下請業者の努力、元請けの考え方に委ねざるを得ない。

【金木】21年の特別養護老人ホーム「しあわせ荘」改築に関わる一般質問に町長は、今後大きな工事が行われる場合に、町内業者も参加できると

いうような検討も必要だという認識で答弁していたが、ど

う考えるのか。

【町長】工事規模が大きく、地元業者に耐え得るだけの人や力や技術力などというものが、いろんな業種によって求められるものであり、可能かどうかということもある。町内業者が参加しやすい状況を作っていくのが町のスタンスだが、いろんなことを積み重ねていきたい。

【金木】「しあわせ荘」改築では完成してからいろいろ支障が出てきた。そうしたことを防止するためにも、町や関係者、また議会でもチェックしやすいように、模型を作製してはどうか。

【学校管理課長】基本設計の契約の中に盛り込んでいる。

【金木】京都府与謝野町では日本一の中小企業の振興条例を作ろうと、地元産業の特性を踏まえて中小業者の中に農

林業の方も入れたり、人づくりの観点を盛り込んだりしている。当町でも羽幌の特徴や

特質を盛り込んだものを検討していくべきではないか。

【産業課長】商工会の方々と一緒に協議の場を持ち、条例を双方で作り上げるよう進め

ていきたい。

平山美知子 議員



問 羽幌高校の通学生徒に対する通学費、下宿費の支援を

答 個々への支援より学校全体としての魅力ある学校づくりを支援

公立高校配置計画決定
学校再編、学級減、
学科の見直しに不安

【平山】道教委では、平成29年～32年度には大幅な欠員が出ている高校が多いことから、統廃合等の再編や学級減、学科の見直しなどの検討が必要と述べている。羽幌高校の生徒の欠員が続いている現状で、配置計画の見直しには大きな不安がある。今後、近隣町村の子供たちが一人でも多く、入学してもらえそうな生徒への支援を考えることも必要ではないか。保護者の負担軽減ということも考え、まずバス利用通学生徒に対して「通学費」、下宿を必要とする生徒には「下宿費」の支援を検討すべきと思う。

【教育長】過去、5年間の状況を見ると、20名程度の欠員が例年生じている。間口推移については平成2年に5間口～4間口に、平成18年には2間口へ減少してきた状況にある。平成23年にPTAを含む学校関係者から、2間口維持に向けた要望事項がだされ、おりクラブ活動、検定料助成、備品整備に対し、支援を増強した経緯にある。「個々への支

援」よりも、学校全体としての魅力ある学校づくりを支援することにより、側面的に援助することを目的として、教育振興会に対し、補助金を交付している現状である。

「通学費の支援」は、一つの支援形態と考えられるが、当面、このような支援体制を継続したいと考えている。「下宿費の支援」についても、今後、多様な通学形態も推測され、町外の学校等へ進学する事例との関係もあることから、難しいものと考えている。

【平山】地元には高校がある他の町では、高校を維持していくために生徒へいろいろな支援をしていると聞いている。例えば、天塩町では通学費の助成をしていると聞いているが、このことにより初山別では、通学費の掛からない天塩高校へ進学するという生徒がいると聞いており、今年の入学者数も羽幌よりも天塩高校の方が多くなっている。通学費の支援は生徒の確保につながる取り組みと思う。答弁からすると、羽幌高校の維持、存続について不安、問題視していないと感じた。見直しについての受け止め、生徒の確

保について、どう考えるのか。【町長】不安視していないわけではない。教育委員会と話しながら、町長部局として精査しながら取り組めることを着実に取り組んでいきたい。存続、学級減にならないように継続的に取り組んでいき、何らかの必要だという施策が出てきた場合、早急に取り組む姿にもっていかねければならないと思っている。

【教育長】平成29年度～32年度までの推移については2間口については、概ね大丈夫という推計値が出ており、今現実的に「差し迫った問題」との認識ではない。高校側とも話し合いをしており、概ね一致している。高校側としては魅力ある学校づくりに対する支援を継続増強してほしいという要望を聞いている。来年度のことでは、もし支援をしたとしても、2～3名位増えることかなと思う。町費としてかなりの支出があるということも念頭において考えていかなければならない。

【平山】一人でも二人でも増やすことを考えてほしい。下宿費についても、同じ経費が掛るのであれば、焼尻の子供たちは留萌などへ出て行ったりすると聞いている。【教育長】焼尻は島外の高校に通わなければならない、何らかの支援が必要と認識している。限定的に焼尻の子供が羽幌高校に通う場合だけ支援するということが可能なのか、公平性の部分で悩んでいる。

【平山】生徒数が少ないと部活の存続やいろいろな事にも影響が出る。地域の高校を守る意味をはっきりとさせ助成するべきで、支援する方向でもう一度検討してほしい。【学校管理課長】魅力ある運営を支援する体制を継続していきたい。高校側としてもこの形を望んでいる。

【平山】町民からも「通学費の支援をどうしてしないのだろう」との声を聴いている。高校側としては今の支援でいいと言っているようですが、行政側から積極的に取り組んでほしい。【町長】高校の存在というものは、地域には大事なことであり、気持ちを強く持ち、取り組みに意を注いでいかなければならない。議員の気持ち

を強く受け止めておきたい。

を強く受け止めておきたい。

小寺光一
議員



児童館設立と子育て支援

【小寺】羽幌町に児童館は存在せず、社会教育や福祉の分野ごとに活動や支援をしている。各分野では限定した年代や所属など範囲が狭くなっている。羽幌町では、子ども達が安心して集まり、遊び、学ぶ場所がなく、特に冬期間は家にいる機会も多くなる。他の自治体では、各地域に児童館があり、子どもが自由に集まり、遊び、またさまざまなプログラムを行っている自治体もある。

問 児童館の設置を推進するべきでは

答 今後の課題にさせていただきたい

問 不妊治療助成事業を創出するべきでは

答 国の方向性と状況を踏まえ、検討していく

問 発注方法や時期を検討するべきでは

答 小規模な工事等は早期に発注できるように取り組んでいく

【町長】町では現在、分野ごとにそれぞれの年齢や目的に

【町長】町では現在、分野ごとにそれぞれの年齢や目的に、どう考えるのか。

今後、教育、福祉が連携して、乳幼児から児童、生徒、親、地域の人が集える児童館設立について検討し、設置に向けて推進するべきと思うが、

【町長】町では現在、分野ごとにそれぞれの年齢や目的に、どう考えるのか。

【町長】町では現在、分野ごとにそれぞれの年齢や目的に、どう考えるのか。

【町長】町では現在、分野ごとにそれぞれの年齢や目的に、

【町長】町では現在、分野ごとにそれぞれの年齢や目的に、

【町長】町では現在、分野ごとにそれぞれの年齢や目的に、

【町長】町では現在、分野ごとにそれぞれの年齢や目的に、

【町長】町では現在、分野ごとにそれぞれの年齢や目的に、

【町長】町では現在、分野ごとにそれぞれの年齢や目的に、

【町長】町では現在、分野ごとにそれぞれの年齢や目的に、

【町長】町では現在、分野ごとにそれぞれの年齢や目的に、

【町長】町では現在、分野ごとにそれぞれの年齢や目的に、

【町長】町では現在、分野ごとにそれぞれの年齢や目的に、

【町長】町では現在、分野ごとにそれぞれの年齢や目的に、

【町長】町では現在、分野ごとにそれぞれの年齢や目的に、

【町長】町では現在、分野ごとにそれぞれの年齢や目的に、

【町長】町では現在、分野ごとにそれぞれの年齢や目的に、

【町長】町では現在、分野ごとにそれぞれの年齢や目的に、

常任委員会

所管事項調査

総務産業常任委員会

(7月25日開催)

◆土別市への行政視察

先進的にめん羊を活用している土別市の3ヶ所へ行政視察を行った。

【土別市役所】

昭和41年当初は直営と各農家で飼育していた。平成9年に羊生産組合が発足したが、市の支出が減ってはいない。後継者問題が大きな課題。

【しずお農場様】

・本体の建設業との資金や人のやりくりを行っており、羊だけで採算は難しい。
・CAS冷凍設備により年間コンスタントに良い状態で出荷していると評価されている。



しずお農場にて説明を受ける

(7月26日開催)

◆焼肉めん羊牧場の管理体制

【経営診断士による中間報告】

（経営収支、損益分岐点）

・平成24年度に初めて利益が出ているが、単式簿記で在庫処分によるもので、その利益の中にも指定管理料が含まれており、町としては実質赤字。
・従業員数や設備と機械の老朽化により、生産数は頭打ちの状態。
・牧場単独収支より地域全体の経済波及を含め検討すべき。

（課題の整理）

- ・原価に見合った価格で売れていない。
- ・後継者育成が課題。
- ・生産量等、現状で黒字化は難しい、このままではジリ貧の可能性が高い。
- ・生産頭数を増やし、価格を上げなければならないが、現状では非常に厳しい。
- ・観光戦略を加えて考える場合、島の環境を含めて考える

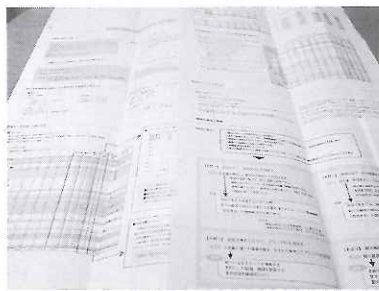
必要がある。

（方向性の提案）

- ・新しい市場を開拓する努力が必要。
- ・観光面では島の貴重な資源。地域全体として考えるべきで、観光事業としてはまだまだ未開発だ。

【質問】現指定管理者以外からの引き合いはあるか。

【回答】数社から引き合いがある状況。



中間報告書(一部)

●担当課説明

- ・草地改良工事（草地改良・機械等）の概算事業費については、総額842万円、うち393万円は地域づくり総合交付金の内示があった。草地改良は20ヘクタール。補正予算で対応したい。

【意見】指定管理がなじむのか等検討し、早い時期に報告願いたい。

(8月2日開催)

◆町道及び橋梁の

耐震・老朽化

—橋梁関係—

【質問】事業の補助率は。

【回答】修繕は60%、計画策定は65%の補助率。

【質問】緊急性がある橋は。

【回答】本年度は、温泉橋の表面に穴が空いているため補修する。

—道路関係について—

◆中央ふ頭道路（アクセス道路）整備検討案の経過

- ①南側堤防通S字改良ルート
- ②公園通南線拡幅改良ルート
- ③南2条通ルート
- ④南1条通ルート

①②については、交通安全上非常に難しい。
④の直轄事業について、留萌港湾事務所と協議し現地調査を実施し協議中であるが時間が必要。

【質問】④の場合、漁協への移転補償が発生するが、漁協との協議は。

【回答】貯水・製氷施設の移転が条件となる。

【意見】通行での安全対策等を良く検討してほしい。

(8月23日開催)

◆商工会役員との

意見交換会

【課題や要望の主な内容】

- ・町発注の建設工事の発注を、町単独事業であればできるだけ早い時期に出してほしい。
- ・小学校建設を、木造で検討してほしい。木造だと地元の仕事が回る。
- ・新築住宅を建設するとき町内業者を利用した場合、補助を検討してほしい。

・基本的な設計単価の見直しをしてほしい。地元の実態に合っていないことがあり、町発注工事はほとんど儲からない。国・道の工事発注も地元を使うよう働きかけてほしい。

・営林署跡地について、有効に活用するよう行政と議論してほしい。

・プレミアム商品券事業を町に支援してほしい。担当課との話し合いでは、工夫がほしいとのことだが、どのような方向でやったら良いか、今後話し合っていきたい。

・町の利子補給制度の対象に、日本政策金融公庫も入れてほしい。

文教厚生常任委員会

(7月22日開催)

◆羽幌小学校建替え事業

小学校児童を対象にアンケートを実施、基本設計業務委託において公募型プロポーザルで公示を行ったこと、児童会などから12人の代表児童が参加し行われた「いきいき・ふれあいトーク」で改築についての説明を行ったことなど学校管理課から説明を受ける。

【質問】アンケートやふれあいトークで出された要望などを設計に盛り込めるのか。

【回答】業者が決まったら、内容を伝えたい。全く反映されないということにはならないようにしたい。

【質問】基本設計後の実施計画も同じ業者になるのか。

【回答】円滑に進めるために同じ業者を考えている。

【質問】オープンスペース教室について、町はこれで進めたいということか。

【回答】オープンスペースでは冬季の暖房や授業運営のデメリットと、メリットもあり、一つの考え方を示した。

【質問】児童数が減ってきた

場合、空き教室の対応は想定しているか。

【回答】使用者の意見を聞きながら進めたい。

【質問】夜間の宿直をどうするか検討しているか。

【回答】機械警備と人的警備と一長一短あり、雇用の関係もあるので検討させてほしい。

【質問】特養ホーム改築の際には、地元業者への配慮から木造にしたいとの町長の意向もあったが、今回はどうか。

【回答】材質までは決まっていない。関係者の話を聞きながら進めたいので、限定されないよう、明記していない。

【質問】地元業者参入可能な方向へ主導するつもりなのか、設計してみなければ分からないということか。

【回答】構造上無理な場合があると思う。可能な限り関わられるように考える事はできる。

【質問】町外業者でなければできないとする部分は何か。

【回答】避難所指定の件では文科省からRC構造が望ましいとの方針が出されている。どの程度地元業者が参加でき

るかというのがまだ不透明。

焼尻小中学校について、保護者の転出によって、休校になる可能性があること、休校に伴う地方交付税への影響等が報告された。

(7月23日開催)

◆ミックス事業

国との協議が整ったこと、事業費は6億600万円を予定、国の補助金、過疎債等の起債、3町村で負担する一般財源で賄うこと、24年度末現在の水洗化率34・9%からミックス事業補助採択要件50%へ3町村で向上に向け努力していくなど説明を受ける。

【質問】ミックス要件に達成できなかった場合のペナルティはどうか。

【回答】3町村での負担があるかもしれない。

【質問】水洗化率向上へ、何をどうするのか。

【回答】民間住宅等を向上させていかなければならない。

【質問】現行のし尿処理施設の状態はどうか。

【回答】いつどうなってもおかしくない。毎年補修点検予算を計上して対応している。

商工会役員と懇談会 (総務産業常任委) 工事発注、プレミアム商品券...

総務産業常任委員会は8月23日、商工会研修室において、商工会役員との懇談会を開催しました。

寺沢委員長からの「忌憚のない意見をいただき、議会活動の手がかりにしたい」とのあいさつに続いての意見交換では、町単独工事の早期発注、羽幌小学校改築や住宅建築での地元業者対策、プレミアム商品券発行への援助、利子補給で融資対象の拡大、営林署



商工会役員と委員会との懇談会

TOPIC 議会

全道議会広報研修会 広報は分かりやすく住民とともに

8月20日、札幌市内のホテルにおいて、全道議会広報研修会が開かれ、議会広報特別委員会の3人が参加しました。研修会では、「議会広報に求められるものは？ありのままに分かりやすく、住民とともに」をテーマに講演が行われました。



議会広報についての講演